

はじめに.....	1
Apache Log4j RCE の脆弱性.....	2
インストール.....	2
サービスパックを適用する前に.....	2
サービスパックのインストール.....	5
サービスパックのロールバック.....	5
Data Privacy Management のインストール後のタスク.....	6
10.5.2.1 の修正された問題と実装された拡張要求.....	7
Data Engineering Integration 修正された問題 (10.5.2.1)	7
Data Engineering Quality 修正された問題 (10.5.2.1)	8
Data Engineering Streaming 修正された問題 (10.5.2.1)	9
Data Privacy Management 修正された問題 (10.5.2.1)	9
Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5.2.1)	9
Informatica Analyst 修正された問題 (10.5.2.1)	13
プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題 (10.5.2.1)	14
10.5.2.1 の既知の問題.....	14
Data Engineering Integration 既知の問題 (10.5.2.1)	14
Data Engineering Streaming 既知の問題 (10.5.2.1)	14
Data Privacy Management の既知の問題 (10.5.2.1)	15
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.2.1)	15
10.5.2.1 に統合された緊急バグ修正.....	18
Informatica グローバルカスタマサポート.....	18

はじめに

Informatica 10.5.2.1 は、複数の緊急バグ修正、制限された機能、既知の問題、およびバグ修正に関する情報を含んだサービスパックです。

このサービスパックは、Data Engineering、Data Security、および Data Catalog 製品をサポートしています。

Linux 用のサービスパックは、[Informatica Network](#) からダウンロードできます。

注: 更新された機能がガイドに含まれていない場合でも、製品ドキュメントはメジャーリリースごとに更新されます。更新された機能がガイドに含まれている場合にのみ、サービスパックと HotFix の製品ドク

コメントが更新されます。サービスパックまたは HotFix のガイドが見つからない場合は、以前のバージョンを参照してください。

Apache Log4j RCE の脆弱性

Informatica 10.5.2 は、Log4j ライブラリバージョン 2.17.1 を採用しています。

ドメイン内のすべてのノードおよびすべての Developer tool マシンに、Log4j 1.x を含むサードパーティライブラリがバンドルされます。すべてのサードパーティがこの問題を修正しているわけではなく、Informatica はベンダと協力して問題を解決しています。Informatica 製品は、デフォルト設定を使用する Log4j 1.x の脆弱性によって攻撃されたり、影響を受けたりすることはありません。

注: Informatica Platform インストーラを使用して製品をインストールすると、使用するかどうかにかかわらずこれらのライブラリが環境にインストールされます。

サードパーティライブラリによる影響と実行できる軽減手順については、Knowledge Base の記事「[Apache Log4j Vulnerabilities related to Distribution Vendors](#)」を参照してください。

インストール

このセクションでは、バージョン 10.5.2.1 のインストールについて説明します。

サービスパックを適用する前に

サービスパックを適用する前に、次のタスクを完了してください。

アップグレードパスの確認

バージョン 10.5.2.1 は、バージョン 10.5.2 に適用するサービスパックです。Informatica バージョン 10.5.2 にアップグレードするためにサポートされているアップグレードパスについては、「[10.5.2 Upgrade Paths](#)」を参照してください。

サービスパックファイルのダウンロード

Informatica は、サービスパックを .tar および .zip 形式で提供しています。1 つ以上のインストーラパッケージをダウンロードして、サービスパックをインストールまたはロールバックします。サービスパックをダウンロードした後に、ファイルのコンテンツを展開します。このサービスパックは、Linux のインストールに使用できます。このサービスパックは、Informatica Developer および PowerCenter クライアントの Windows インストールでも使用できます。

サービスパックには次のファイルが含まれています。

Input.properties

Informatica がインストールされるディレクトリを指定したファイル。サービスパックはこのディレクトリにインストールされます。このディレクトリパスでファイルを更新します。また、このファイルには、サービスパックをアンインストールする場合に設定できるロールバックプロパティが含まれています。

install.bat

Windows マシン上の Developer tool 用に指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Windows インストーラに含まれています。

install.sh

Linux マシン上の指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Linux インストーラに含まれています。

サービスパックを適用するには、サービスパックインストーラ、Informatica Developer インストーラ、およびコマンドラインユーティリティパッケージをダウンロードします。

サービスパックインストーラ用の次のパッケージをダウンロードします。

- informatica_10521_server_linux-x64.tar
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。

Informatica Developer **の次のパッケージをダウンロードします。**

- informatica_10521_client_winem-64t.zip
Developer tool インストールのアップデートが含まれます。

コマンドラインユーティリティ用の次のパッケージをダウンロードします。

- informatica_10521_cmd_utilities_linux-x64.zip
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。

Enterprise Data Catalog の前提条件の完了

Informatica 10.5.2.1 を適用する前に、次のセクションに記載されているアクションを実行します。

クラスタ検証ユーティリティの実行

バージョン 10.5.2.1 の Informatica クラスタ検証ユーティリティをダウンロードして実行し、Enterprise Data Catalog の前提条件を検証します。

SSH サーバー構成ファイルの MaxStartups パラメータの設定

すべてのクラスタノードで、/etc/ssh/sshd_config ファイルを開き、MaxStartups パラメータの値を 30:30:100 に設定して、未認証の同時 SSH 接続の数を 30 に増やします。

未認証の SSH 接続は、ユーザー認証なしで確立された SSH デーモンへのソケット接続です。

パラメータを設定した後、次のコマンドを使用して sshd デーモンを再起動します: `sudo systemctl restart sshd`。

カタログサービスのバックアップ

infacmd ldm backupContents コマンドを使用してカタログサービスをバックアップします。カタログサービスのバックアップコマンドの詳細については、『*Informatica コマンドリファレンス*』の「backupContents」を参照してください。

注: サービスパックと累積パッチを含む Enterprise Data Catalog バージョン 10.4 または 10.4.1 からバージョン 10.5.2 にアップグレードした場合は、カタログサービスが実行されているすべてのノードの次のパスから restore.jar ファイルを削除します: <Informatica installation directory>/logs/<NodeName>/services/CatalogService/<CatalogServiceName>/migrate

MetaDex サーバーの停止

次のコマンドを実行して、MetaDex サーバーを停止します: <Informatica installation directory>/services/CatalogService/AdvancedScannersApplication/app/server.sh stop

MetaDex リポジトリのバックアップ

標準のデータベースバックアップ手順を使用して、MetaDex リポジトリをバックアップします。

注: サービスパックインストーラを使用して、以前のバージョンの MetaDex に戻すことはできません。

Data Privacy Management の前提条件の完了

以下のタスクを実行します。

- Data Privacy Management リポジトリをバックアップします。サービスパックをロールバックする必要がある場合は、バックアップが必要です。
- Informatica Discovery Agent を使用してスキャンを実行する場合は、次のファイルをバックアップします: <SRAgent インストールディレクトリ>/bin/siagent.properties
このファイルには、エージェントの設定方法を決定するプロパティが含まれています。
- Informatica Discovery Agent を使用して HDFS ソースをスキャンする場合は、次のファイルをバックアップします: <SRAgent インストールディレクトリ>/bin/datastore.properties
このファイルには、スキャンを実行するために必要な情報が含まれています。

Input.properties ファイルの更新

input.properties ファイルには、Informatica のインストール先を指定するプロパティと、サービスパックインストーラの実行時に行うアクションを定義するプロパティが含まれています。サービスパックのインストールまたはロールバックの前に、これらのプロパティを更新します。ダウンロードしたそれぞれのサービスパックのファイルを更新します。

1. サービスパックファイルを展開します。
2. サービスパック内の input.properties ファイルを見つけます。
3. ファイルの *DEST_DIR* プロパティを、Informatica ルートディレクトリのパスで更新します。
 - Linux マシンでは、パスを次の形式で設定します。
`DEST_DIR=/home/infuser/<version number>`
 - Windows マシンでは、パスを次の形式で設定します。
`DEST_DIR=C:\\Informatica\\<version number>`
4. すべての製品コンポーネントや単体のコンポーネントのサービスパックを適用またはロールバックできます。input.properties ファイルには、各製品コンポーネントの識別子が含まれています。すべてのコンポーネントのサービスパックをインストールするには、各識別子をデフォルト値の **0** に維持します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の操作を行います。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ (#) を削除します。
- Data Engineering 製品の場合、BDM_ONLY を 1 に設定します。

- Enterprise Data Catalog の場合、EDC_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Preparation の場合、EDP_ONLY を 1 に設定します。
- Data Privacy Management の場合、DPM_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントを適用します。

1. Data Engineering 製品
2. Enterprise Data Catalog
3. Enterprise Data Preparation
4. Data Privacy Management

サービスパックを適用した後に、インストーラを使用してサービスパックを自動的にロールバックすることはできません。サービスパックをロールバックするには、「[Roll Back the Service Pack to a Specific Component](#)」の節に記載されている手順を実行する必要があります。

5. ファイルを保存し、閉じます。

サービスパックのインストール

インストーラファイルを実行して、サービスパックをインストールします。

1. すべての Informatica アプリケーションを閉じ、すべての Informatica サービスを停止します。
2. サービスパックファイル内でインストーラファイルを見つけて、そのファイルを展開します。
 - Linux システムの場合、サービスのインストーラファイルは install.sh です。
 - Windows システムの場合、クライアントのインストーラファイルは install.bat です。
3. インストーラを実行します。

サービスパックのロールバック

すべてのコンポーネントまたは特定のコンポーネントに適用したサービスパックをロールバックすることができます。

1. input.properties ファイルで、ROLLBACK プロパティの値を設定します。サービスパックをロールバックするには、この値を **1** に設定します。

サービスパックをインストールまたはロールバックするときに、インストーラはデフォルトではすべてのコンポーネントを適用します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の手順を実行します。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ（#）を削除します。
- Data Engineering 製品の場合、BDM_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Catalog の場合、EDC_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Preparation の場合、EDP_ONLY を 1 に設定します。
- Data Privacy Management の場合、DPM_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントをロールバックします。

1. Data Privacy Management
2. Enterprise Data Preparation
3. Enterprise Data Catalog
4. Data Engineering 製品

2. ファイルを保存し、閉じます。

サービスパックを Enterprise Data Catalog バージョン 10.5.2 に適用した後に sudoers ファイルを変更した場合は、Informatica クラスタサービスを有効にする前に tee コマンドと sed コマンドの sudo 権限を指定したことを確認してください。

Data Privacy Management を使用する場合、Informatica Administrator にログインし、Data Privacy Management サービスデータベースプロパティを、バックアップの場所を指すように更新します。Data Privacy Management サービスを有効化します。

Data Privacy Management のインストール後のタスク

サービスパックをダウンロードして適用した後に、次のタスクを実行します。

Data Privacy Management サービスのアップグレード

Data Privacy Management サービスコンテンツをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、Informatica ドメインを起動します。
`cd <Informatica installation directory>/tomcat/bin ./infaservice startup`
2. Data Privacy Management サービスが無効になっていることを確認します。
3. 他の Informatica サービスがすべて有効になっていることを確認します。
4. Informatica Administrator にログインし、ドメインナビゲータのサービスのリストから Data Privacy Management サービスを選択します。
5. **【アクション】 > 【コンテンツのアップグレード】** をクリックします。
6. Data Privacy Management サービスを有効にします。

Informatica Discovery Agent のアップグレード

サブジェクトレジストリに非構造化ソースが含まれている場合、またはリモートエージェントを使用して非構造化ソースでドメイン検出を実行する場合は、Informatica Discovery Agent をアップグレードします。

1. 次のコマンドを実行して、既存のリモートエージェントをシャットダウンします。

- Linux
`cd <Existing remote agent directory>/bin
./siagent.sh shutdown`

- Windows

```
cd <Existing remote agent directory>\bin  
siagent.bat shutdown
```

2. 次の場所からエージェントバイナリを抽出します: <Informatica インストールディレクトリ>/SecureAtSourceService/InformaticaDiscoveryAgent/InformaticaDiscoveryAgent.zip
ファイルをフォルダに抽出します。例: NewRemoteAgent
3. 次のファイルを既存のリモートエージェントフォルダから NewRemoteAgent フォルダにコピーします: <既存のリモートエージェントディレクトリ>/tomcat/conf/server.xml
4. リモートエージェントのキーストアファイルとトラストストアファイルがリモートエージェントディレクトリの外部にあるか、バックアップされており、server.xml ファイルで場所が更新されていることを確認してください。
5. 次のコマンドを実行して、リモートエージェントを開始します。

- Linux

```
cd <NewRemoteAgent>/bin  
./siagent.sh startup
```

- Windows

```
cd <NewRemoteAgent>\bin  
siagent.bat startup
```

6. <NewRemoteAgent>/bin/siagent.properties ファイルを、サービスパックを適用する前にバックアップした siagent.properties ファイルに置き換えます。
7. Informatica Discovery Agent で HDFS ソースをスキャンする場合は、<NewRemoteAgent>/bin/datastore.properties ファイルを、サービスパックを適用する前にバックアップした datastore.properties ファイルに置き換えます。

10.5.2.1 の修正された問題と実装された拡張要求

この節では、10.5.2.1 で修正された問題と拡張要求を示します。

Data Engineering Integration 修正された問題（10.5.2.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BDM-39713	<p>Blaze エンジンが CDP プライベートクラウドクラスタで同時マッピングを実行すると、一部のマッピングが失敗する可能性がある。次のエラーメッセージがマッピングセッションログに表示される。</p> <pre>The tasklet [gtid-14-1-82093876-863418_s2_t-0] failed with the following error: [UNK_66007 Unable to establish a connection with the specified HDFS host because of the following error: [java.lang.NullPointerException at org.apache.log4j.Category.isEnabledFor(Category.java:569) at org.apache.log4j.Category.isEnabledFor(Category.java:324) at com.informatica.logging.log4j.InfaLog4jLogger.log(InfaLog4jLogger.java:206) at com.informatica.logging.log4j.InfaLog4jLogger.info(InfaLog4jLogger.java:109) at com.informatica.platform.dtm.executor.hadoop.impl.IHadoopFactoryImpl.initWithExecClassLoader(IHadoopFactoryImpl.java:660) at com.informatica.platform.dtm.executor.hadoop.impl.IHadoopFactoryImpl.init(IHadoopFactoryImpl.java:148) at com.informatica.platform.dtm.executor.hadoop.impl.IHadoopFactoryImpl.<init>(IHadoopFactoryImpl.java:137) at com.informatica.platform.dtm.executor.hadoop.impl.IHadoopFactoryImpl.<init>(IHadoopFactoryImpl.java:206) at com.informatica.platform.dtm.executor.hadoop.IHadoopFactory.newHadoopFactory(IHadoopFactory.java:58) at com.informatica.powercenter.sdk.server.JSDKHelper.getHadoopClassLoader(JSDKHelper.java:167) at com.informatica.powercenter.sdk.server.JSDKHelper.getHadoopClassLoader(JSDKHelper.java:190)].].</pre>

Data Engineering Quality 修正された問題 (10.5.2.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-10180	コンテンツ管理サービスで、解析のみのアドレス検証操作のライセンスキーが有効期限切れになる。
IDQ-10241	<p>次の条件に該当する場合、Data Quality がスペインの有効な電話番号を認識できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - スペイン版 Data Quality Accelerator の <i>rule_ESP_Phone_Parse_Standardize_Validate</i> マップレットを使用して、電話番号を検証している。 - 電話番号が数字の 7 で始まり、数字の 0 が含まれている。
IDQ-9993	一致トランスフォーメーションで [パフォーマンス照合分析] オプションを選択した場合、Developer tool に [パフォーマンス照合分析] ウィンドウが表示されない。

Data Engineering Streaming 修正された問題（10.5.2.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IIS-5790	Spark エンジンがソータトランスフォーメーションと複雑な XML 形式を使用して複雑なマッピングを実行すると、マッピングは誤ったデータを返す。

Data Privacy Management 修正された問題（10.5.2.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
SATS-41113	スキャンが警告状態になると、データストアのデータ侵害レポートをダウンロードできない。
SATS-42014	LDAP ユーザーグループをデータストアのセキュリティグループとして設定した場合、セキュリティポリシー違反の電子メール通知アクションが通知をトリガしない。
SATS-42107	TCP リスナのデフォルトポートを変更できない。
SATS-42108	サブジェクトレジストリと DSAR レポートの準備に非常に時間がかかる。
SATS-42109	Salesforce データベースからユーザーアクセスとユーザーアクティビティの詳細をインポートすると、エラーが発生する。
SATS-42117	エラスティック検索ノードを 4 つ以上設定できない。
SATS-42122	電子メールスキャンの「結果の参照」ステップで結果が返されない場合がある。

Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.2.1）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
EIC-23698	Catalog ツールでアセットの【ユーザー】カスタム属性に値を割り当てると、ユーザーのリストが表示されない。この問題は、LDAP ユーザーの氏名カラムに NULL 値またはスペースなしの値が含まれている場合に発生します。
EIC-46130	テーブルを切り詰めて Informatica Data Quality リソースを再スキャンした後、Catalog Administrator ツールでプロファイリング統計が更新されない。
EIC-51228	すべてのデータベースをスキャンするように IBM DB2 for z/OS リソースを設定し、その後スキーマを選択すると、リソーススキャンにアセットが 1 つも含まれない。
EIC-56956	SAP Business Objects リソースを実行すると、ステージングフェーズとメタデータロードフェーズのパフォーマンスが低下する。
EIC-57025	SAP Business Objects リソースを実行すると、スキナログに MITI エラーが記録される。
EIC-57329	リソースログファイルに、リソース設定に関する情報が含まれない。
EIC-59831	【推測しきい値】の値が【自動承認しきい値】の値以上の場合、データドメインプロパゲーションシステムのリソースを保存すると、システムリソースは次のエラーメッセージで失敗する: Invalid confidence score threshold values.
EIC-59852	推測にスマートデータドメインを検討するために必要なデータドメインプロパゲーションシステムのリソースの推測しきい値の割合に、10 進値を追加することができない。
EIC-60109	失敗通知サブスクリバが、Catalog Administrator ツール、および Enterprise Data Catalog ツールの【概要】タブの【ユーザー】セクションにカスタム属性として表示される。これはエラーであり、無視することができる。
EIC-60192	sudoers の I/O ロギングが有効になっている場合、Informatica クラスタサービスは関連付けられているサービスを開始できない。
EIC-60294	ビジネス用語として割り当てられた Axon 用語集アセットを含む CSV ファイルをインポートすると、カタログ内のアセットのキーデータ要素 (KDE) アイコンを表示できない。
EIC-60537	アセットに分野の専門家 (SME) を追加してからアセットに変更を加えた場合、変更通知に SME の追加に関する情報が含まれる。

問題	説明
EIC-60564	リソースレベルで分野の専門家 (SME) としてユーザーを追加すると、そのユーザーに対して、過去にリソースおよびリソース内のアセットに加えられた変更に関する電子メール通知が届く。
EIC-60610	Data Flow Analytics を使用して PowerCenter リソースを実行すると、テーブル内のカラムの値が切り詰められるために失敗する。この問題は、カラムの値の長さが 255 文字を超える場合に発生します。
EIC-60681	データドメインのプロパゲーションジョブがいつまでも実行され、完了しない。
EIC-60754	分野の専門家 (SME) としてプロパゲートされたユーザーを 1 人だけ残してすべてアセットから削除すると、新しいユーザーが分野の専門家 (SME) として追加されたら変更通知に誤って表示される。
EIC-60760	SAP Business Objects リソースを実行すると、Enterprise Data Catalog がデータソースから抽出するクリスタルレポートスキーマオブジェクトの数が少なくなる。
EIC-60847	データ検出フィルタを適用すると、Amazon S3 リソースでの Parquet ファイルのプロファイリングとデータドメイン検出に時間がかかる。
EIC-60881	50 人を超えるユーザーがいる場合、Catalog ツールが、データスチュワードまたは分野の専門家 (SME) の値を自動提案できない。
EIC-60904	Enterprise Data Catalog をバージョン 10.5.2 にアップグレードした後、client_certs ディレクトリの権限が予期せず 0600 から 0664 に変更される。
EIC-60931	特殊文字だけが異なる複数のカラム名を含む Amazon Redshift リソースでプロファイルを実行すると、次のエラーで失敗する: Failed to validate the data object because the entry name:<column name>,already exists in the collection [null]. Provide a unique name for the entry.
EIC-60974	「List Application Events」 REST API は、カタログにアセットエンリッチメントが含まれていない場合、内部サーバーエラーを返す。
EIC-61161	大量のデータを含む Oracle リソースでプロファイルを実行すると、パフォーマンスの問題が発生する。
EIC-61181	サーバー時間がユーザーのタイムゾーンにおける翌日になった場合、カスタムスケジュールがトリガされない。

問題	説明
EIC-61187	特定の Oracle リソースからアセットをエクスポートした場合、エクスポートジョブが失敗し、次のエラーメッセージがログファイルに表示される: Caused by: java.lang.NumberFormatException: empty String
EIC-61251	Azure Microsoft SQL Data Warehouse リソースでプロファイルを実行すると、Catalog Administrator ツールでプロファイルが失敗する。
EIC-61281	ldmadmin.log ログファイルが更新されない。
MDX-27716	COBOL と JCL MetaDex スキャナで必要な変数とデータ間の依存関係をすべて宣言せずに、COBOL コードでこれらの変数を割り当てると、次のエラーが表示される: Cannot find object instance for name: name, type: type)
MDX-27979	IBM InfoSphere DataStage スキャナを実行すると、次のエラーが発生する: Cannot read ISX parameter set entry: Duplicate key DS_JOB_PARAMETER。このエラーは、DS_JOB_PARAMETER と ds_job_parameter など、大文字と小文字のみが異なる 2 つのパラメータ名を含むパラメータセットを処理したときに発生します。
MDX-28221	IBM InfoSphere DataStage スキャナを実行すると、コネクタステージでジョブが失敗する。コネクタは、UTF-8 形式の SQL 入力ファイルのみを受け付けます。
MDX-28309	Microsoft Power BI MetaDex スキャナが、Impala.Database 関数を処理できない。
MDX-28341	MetaDex スキャナがカタログへのメタデータの保存中に失敗した場合、MetaDex ツールのジョブステータスにメタデータの保存が成功したと表示される。
MDX-28363	IBM InfoSphere DataStage スキャナを実行すると、次の警告が表示される: Column RECORD_NO has no expression defined in Lku_Dec_Point stage of type Lookup。これは、スキャナがルックアップステージの特定の却下リンクケースを処理しないために発生します。
MDX-28469	IBM InfoSphere DataStage スキャナを実行すると、MetaDex は、ファイルのコンテンツを処理する代わりにファイルパスを SQL として処理する。
MDX-28617	COBOL および JCL スキャナを使用してメインフレームメタデータをスキャンすると、ジョブが次のエラーで失敗する: Exception executing batch... value too large for column.

問題	説明
MDX-28645	ALTER TABLE 文を使用して新しいカラムを追加するノートブックに対して Databricks Notebooks MetaDex スキャナを実行すると、追加したカラムは存在せず、不明なカラムのエラーが表示される。
MDX-28831	Oracle MetaDex スキャナの update 文で特別な値 DEFAULT を使用すると、次のエラーが表示される: Unknown column: DEFAULT
MDX-28929	Databricks Notebooks MetaDex スキャナが、spark.conf.set 関数で設定した値を無視する。次のエラーが表示されます: Cannot determine value
MDX-28993	IBM InfoSphere DataStage MetaDex スキャナを実行すると、ISX 式パーサーが全角英数字の処理に失敗する。完全なリネージュを表示できず、次のエラーが表示されます: Unable to parse ISX expression

実装された拡張要求

次の表に、実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-53936	Catalog Administrator ツールで空のテーブル数とリソースの統計を表示できるようになりました。
EIC-60717	カタログサービスの次のカスタムプロパティを使用して、各 Nomad ログファイルのファイルサイズを 300 MB より大きくできるようになりました: LdmCustomOptions.orchestration.nomad.log.max.ephemeral.disk.space.mb
EIC-60894	複合データドメイン検出を有効にし、ビジネス用語を Amazon S3 V2 リソースに関連付けることができるようになりました。

Informatica Analyst 修正された問題 (10.5.2.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
ANT-2426	Analyst ツールで、二重引用符をテキスト修飾子として使用して既存のファイルからフラットファイルデータオブジェクトを作成すると、カラムに二重引用符が含まれる値がレビューに誤って表示される。
IDQ-10207	参照テーブルの監査証跡の年度選択メニューに、2021 年と 2022 年が表示されない。

プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題（10.5.2.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
ANT-2429	アセットをチェックアウトし、プロファイル内のデータ型を承認または却下すると、次のエラーが表示される: Please check out the profile.
ANT-2457	Analyst ツールで複数のルールを含むプロファイルを編集した時に、 【保存して実行】 および 【保存して終了】 ボタンが機能しない。
IDE-5534	Spark エンジンでカラムプロファイルを実行した後、プロファイル結果の 【統計】 タブに上位 5 つの値と下位 5 つの値が表示されない。
IDE-5547	サンプリングオプションを使用してリソースを設定し、JDBC 接続を使用して Databricks Delta テーブルでプロファイルを実行すると、データソース内のすべての行でプロファイルが実行される。

10.5.2.1 の既知の問題

この節では、10.5.2.1 で見つかった既知の問題を示します。

Data Engineering Integration 既知の問題（10.5.2.1）

以下の表に 10.5.2.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
BDM-40186	Spark エンジンが Cloudera CDP 7.2.x プライベートクラウドクラスターでデータプレビューを実行すると、ジョブが次のエラーで失敗する: Error:Exception in thread "main" java.lang.NoSuchMethodError: scala.concurrent.ExecutionContext\$Implicits\$.global()Lscala/concurrent/ ExecutionContextExecutor;

Data Engineering Streaming 既知の問題（10.5.2.1）

以下の表に 10.5.2.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5842	複合型 XML スキーマのフィールドにハイフン (-) が含まれている場合、XML Kafka Data オブジェクトがデータを Hive テーブルにロードしない。

Data Privacy Management の既知の問題（10.5.2.1）

以下の表に 10.5.2.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
SATS-42168	Snowflake 詳細スキャナデータストアのスキャン結果にビューが含まれない。
SATS-42179	Snowflake 詳細スキャナデータストアのテスト接続が、次のエラーで失敗する: could not connect to the data store with given attributes
SATS-42203	Data Privacy Management にインポートする前に Enterprise Data Catalog で結果を手動で更新すると、インポートされたカタログリソースの [データの一致] カラムと [メタデータの一致] カラムに誤った値が表示される。
SATS-42220	[データストア] ページに表示されるリスクスコア値が、[リスクスコアの詳細] ページに表示される値と異なる。

Enterprise Data Catalog の既知の問題（10.5.2.1）

以下の表に 10.5.2.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
EIC-60888	プロファイリングを有効にして Snowflake MetaDex スキャナを実行すると、データドメインにマッピングされたビューが Catalog ツールに表示されない。
EIC-60934	複数のスキーマを含める [Object include filters] パラメータを使用し、プロファイリングを有効にして Snowflake MetaDex スキャナを再実行すると、MetaDex スキャンが次のエラーを返す: Could not import generated files into EDC
EIC-60975	次の状況で、アセットナビゲーションの問題が発生する。 <ul style="list-style-type: none">- Catalog ツールで子アセットでタブを開いた後、親アセットで外部キーまたはプライマリーキーのリレーションリンクを開くと、子アセットで開いたタブに戻る。- [すべて表示] をクリックしてアセットの [テーブル] ダイアログボックスを開き、外部キーリレーションリンクをクリックすると、アセットが [キー] タブに移動する。
EIC-61077	Power BI リソースの推測されたビジネスタイトルが Catalog ツールに表示されない。
EIC-61151	2500 人を超えるユーザーがいる場合、データストチュワード、データ所有者、または分野の専門家 (SME) を追加すると Catalog ツールがユーザーの読み込みに失敗する。

問題	説明
EIC-61204	【フィルタの適用】 ダイアログボックスで、[リネージュと影響] ビューにカスタムの方向フィルタを適用できない。
EIC-61205	【フィルタの適用】 ダイアログボックスで、保存したフィルタを編集するときに、 【リレーション】 と 【方向】 フィルタオプションが表示されない。
EIC-61206	【フィルタの適用】 ダイアログボックスで、[検索] テキストボックスを使用して保存したフィルタを検索できない。
EIC-61215	Amazon S3 V2 リソースが、テキストファイルからメタデータを抽出できない。
EIC-61265	接続の割り当てが正しい場合でも、Hive リソースが正しくないマッピングを抽出する。
EIC-61288	PowerCenter リソースによって抽出されたマッピングメタデータに、ルックアップトランスフォーマーの制御リネージュが含まれていない。
EIC-61304	PowerCenter リソースによって抽出されたマッピングメタデータに、アグリゲータトランスフォーマーの制御リネージュが含まれていない。
EIC-61311	Oracle リソースで一意的キーを推測するプロファイルを実行すると、パフォーマンスの問題が発生する。
EIC-61322	メモリが十分にある構成で Azure Data Factory (ADF) MetaDex スキャナを実行すると、リソースが次のエラーで失敗する: java.lang.OutOfMemoryError: GC overhead limit exceeded この問題は、リソースに多数のオブジェクトとリンクが含まれている場合に発生します。
EIC-61328	リレーショナルリソースの 【データ準備】 を一度有効にすると、無効にすることができない。
EIC-61351	Amazon S3 V2 リソースの非構造化ファイルでは、データドメインのエクスポートとインポートが想定どおりに機能しない。

問題	説明
EIC-61352	<p>次の状況で、リソースに対して行われたデータソースの変更に関する電子メール通知がユーザーに重複して届く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Catalog Administrator ツールで、ユーザーをあるリソースの分野の専門家（SME）として追加し、そのリソースを介してロードされたすべてのアセットにその SME をプロパゲートする。 2. リソースに対して行われたデータソースの変更の追跡を有効にして、リソースを実行する。 3. Catalog ツールにログインし、リソースにエンリッチメントを追加する。 4. Catalog Administrator ツールで、分野の専門家（SME）を削除し、リソースを実行する。 5. Catalog ツールで、リソースレベルでユーザーを分野の専門家（SME）として追加する。
EIC-61360	Enterprise Data Catalog をバージョン 10.5.1 からアップグレードした後、特定の複数値のカスタム属性が【分類】セクションに表示されない。
EIC-61388	Catalog ツールで、リレーショナルテーブルの【概要】タブから Informatica Intelligent Cloud Services のデータの準備を起動できない。この問題は、データの準備にプロジェクトが存在しない場合に発生します。
EIC-61407	<p>Enterprise Data Catalog をバージョン 10.4.0.2 または 10.4.1.3.11 からアップグレードした後、Google BigQuery リソースによって抽出されたアセットとメタデータを Catalog ツールに表示できない。</p> <p>回避策: Enterprise Data Catalog バージョン 10.5.2.1 にアップグレードした後、Google BigQuery リソースを再度実行します。</p>
EIC-61433	Informatica Data Quality リソースの抽出プロセスとステージングプロセスが、完了せずにいつまでも実行される。
MDX-29178	Microsoft Azure Data Factory MetaDex スキャナを実行すると、選択フローでルールベースのマッピングがサポートされていないことが原因で次のエラーが発生する: Cannot parse data flow
MDX-29273	<p>MetaDex ツールで、EDC の【リソースリロードタイムアウト】パラメータのデフォルト値を変更できない。</p> <p>回避策: このパラメータを変更します。【設定】ページの右上にある【編集】ボタンをクリックします。</p>
MDX-29275	Microsoft Azure Data Factory MetaDex スキャナを実行すると、スキャンプロセスがバックグラウンドでまだ実行されていてもジョブステータスが完了と表示される。

10.5.2.1 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5.2.1 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5.2.1 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください：

https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10521?language=en_US

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルカスタマサポートにお問い合わせいただく場合は、電話または Informatica Network からご連絡ください。

それぞれの地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号については、Informatica Web サイト

(<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースについては、<https://network.informatica.com> の eSupport オプションをご確認ください。